



防災！一瞬の判断と備え

新型コロナウイルス感染状況の拡大のため、オンラインでの講座となりました。近年、経験したことのない災害が全国各地で発生しており、災害に対する備えが欠かせません。講義では阪神・淡路大震災で被災された体験談や、九州北部豪雨、大阪府北部地震、そして西日本豪雨災害といった過去の土砂災害や風水害の状況や教訓について説明いただきました。防災の原点である「自助は公助に必ず繋がる」ということや、過去の経験や土地の被災の歴史を通して自分たちの身をどう守るのかということ、実際の避難所の現状と課題についてなど、多岐にわたって学びました。オンライン講座のため、実際に避難所運営ゲーム「HUG」を体験することはできませんでしたが、コロナ禍での避難所運営や災害時に何をすべきか、何ができるのかを考えるよい機会となりました。（受講者数99人）

〈研修内容〉

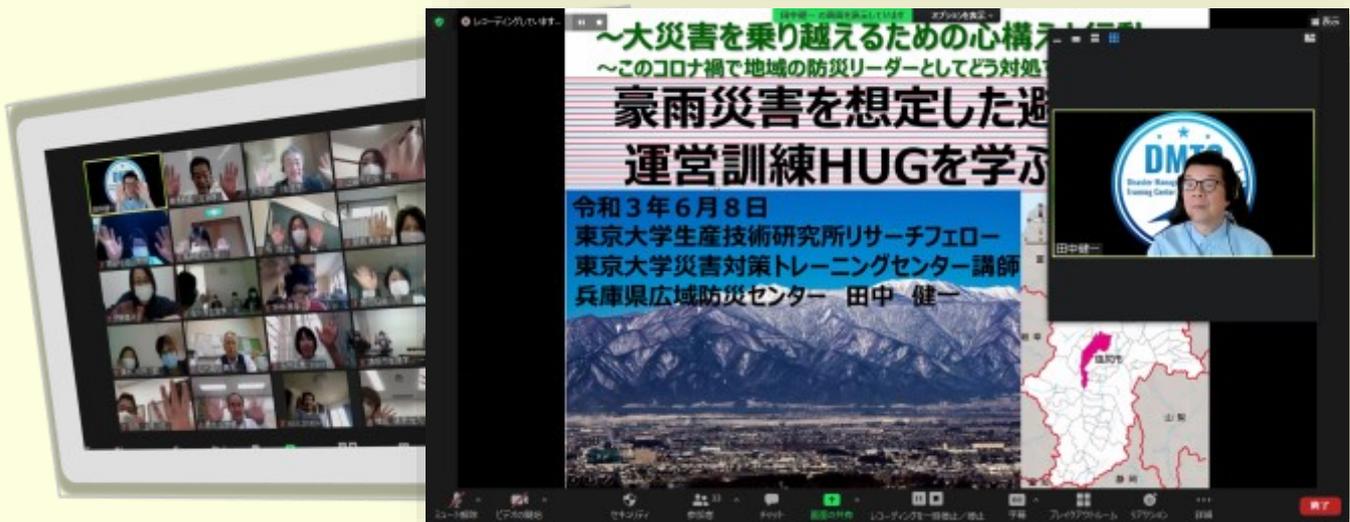
【講義】「一瞬の判断と備え ～あなたは突発的な自然災害に対処できますか～」

【演習】「避難所運営ゲームHUGの疑似体験と避難所運営のポイント」

講師 兵庫県広域防災センター防災教育担当

東京大学生産技術研究所リサーチフェロー

東京大学災害対策トレーニングセンター講師 田中 健一 氏



受講者アンケートから

- コロナ禍での災害対応については、これまでの対応を修正する必要があると感じていた。今回の講義で、大切な事は「先読み」することと伺った。過去の災害の経験を生かし、自分の身の周りで起きた場合を想像してみる事が大切であると感じた。（公民館職員）
- 大きな災害は年が経つとどんどん忘れられていき、その時の教訓も消えていき、意識しなくなります。災害の歴史を知り、その時の経験を生かすことも重要だと思いました。（公民館職員）
- コロナ禍の制約があったため、実際に体験できなかったのは残念であったが、どのような視点が大切かについて示唆多き内容でした。今後、ぜひ実際に体験をしたいです。（学校教職員）
- 実際にHUGワークショップは実施しなかったが、避難所設置にあたってはどんどん進行して行かなければならないもので、考えることが山積みだということがわかった。（企業）